

(別紙5)

整理番号 2019P-002
補助事業名 2019年度 東京五輪・パラリンピックに向けた自転車競技の競技力向上等に資する事業 補助事業
補助事業者名 (公財)日本自転車競技連盟

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

選手の強化合宿を実施し、東京オリンピック開催に向けた自転車競技の競技力向上を図り、将来的な自転車競技の普及・振興に寄与し、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

各競技種目におけるナショナルチーム国内強化合宿、それに伴うコーチ・スタッフの派遣、競技用器材等整備を実施した。

●トラック強化合宿

トラック国際大会(世界選手権, ワールドカップ, クラスI・II大会)派遣に向けて国内合宿基地である日本サイクルスポーツセンター伊豆ペドロームを拠点に、国内外でトラック短距離・中距離ナショナルチーム強化合宿を実施。

●ロード強化合宿

ロード国際大会(UCIアジアツアー、U23ネーションズカップ、ジュニアネーションズカップ)、世界選手権大会派遣に向けて国立スポーツ科学センター(JISS)でロードナショナルチーム測定合宿を実施。また、2020東京オリンピックに向けた暑熱対策の合宿を実施した。

●MTB強化合宿

ジュニア、ユースの選手を対象として冬季に愛知県で実施した。マウンテンバイクは、高体連や学連に種目がないため集団でのトレーニングを行う機会が少ない。つまりユース・ジュニア期から合宿を行うことで、トレーニング知識の習得と同年代のつながりを持つことが、将来の競技力向上につながることを期待している。シーズン前の強化合宿を実施。

●BMX強化合宿

BMXレースは2019世界選開催地に於いての合宿や、東京オリンピック本番コースでの合宿などを行い、2019/2020シーズンのトレンドや、各セクションのベストラインを模索、大会へ向けての事前練習を中心に実施した。10月の東京合宿ではワールドカップシリーズ覇者を率いるオランダナショナルチームや、スイスナショナルチームとの合同練習も行い、ハイレベルのプラクティスを行えた。

2020年3月の合宿は5月に開催予定であった世界選開催地にて合宿を実施し、ジュニアカテゴリーの選手を中心にレース形式でのシミュレーションを実施した。

(別紙5)

BMXフリースタイルは日本国内にレジージャンプやスポンジプールなどを完備した施設が少ないため、海外の施設で合宿を実施。

● コーチ・スタッフの整備

Ready Start Tokyo Cyclingテストイベントにロードコーチ派遣を実施。

アジア選手権（ロード）にドクター派遣を実施。

● 国内合宿基地等維持費

トラック競技の世界標準である国内唯一の屋内板張走路と、それに付随するトレーニング環境の整備。

● 競技用機材等整備費

レース数の増加に伴い、機材の消耗が激しく、ホイール機材の購入、修理をした。

また、レース後の選手のリカバリーに必要な機材備品を整備した。

2 予想される事業実施効果

日本は、2020年東京オリンピック開催国ということからメダル獲得の期待が大きく、これまでオリンピックでメダルを獲得して来ているトラック種目は特に注目されることが想定できる。

今後は、国際大会で経験を多く積むことで、他国との力の差を縮めるとともに多くのスター選手を輩出し、周囲から注目されることにより自転車競技の振興が図られる。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

なし

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名：公益財団法人日本自転車競技連盟（ニホンジテンシャキョウギレンメイ）

住所：〒141-0021

東京都品川区上大崎3-3-1

代表者：佐久間 重光

担当者名：黒江 祐平（クロエ ユウヘイ）

電話番号：03-6277-2690

F A X：03-6277-2690

E-mail：oshima@jcf.or.jp

U R L：<http://jcf.or.jp/>